
次に会うときまで・・・・・・・・

セウル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

次に会うときまで…………

【Nコード】

N5823R

【作者名】

セウル

【あらすじ】

「嫌！そんなの…………認めたくない！」

家を飛び出していく美冬^{みふゆ}を

「待て！くそ…………馬鹿野郎！」

義人^{よしひと}が追いかけていく…………

夕暮れに染まっていく公園で二人は話し合う…………

(前書き)

オリジナル短編・・・・・・類似作あるかな・・・？
少女はどうしても・・・・・・離れたくない

「なんで．．．．．どうしてなんだろう．．．．」

「俺に言われても．．．．．」

「嫌だ！嫌だよ．．．．．なんで．．．．．」

「諦めろよ．．．．．美冬。」

そっと、今にでも泣き出しそうな美冬の肩に手を回す。

夕暮れの光が、俺を見上げる美冬の顔を照らし出し．．．．．
普段はなんとも無いことなのに．．．．．見とれてしまう．．．．．

「義人．．．．．私ね．．．．．どこか遠くへ行きたい。」

「美冬．．．．．」

「あんなことが起きない．．．．．幸せなところへ。」
．．．．．

ただ黙って2人ベンチに肩寄せあって座る．．．．．

俺は、美冬の声を頭に響かせて残す．．．．．

「だって．．．．．こんなの寂しすぎるよ。悲しすぎるよ。

やっ与会えたのに．．．．．こんな．．．．．すぐに」

「美冬！泣くな．．．．．諦めろ．．．．．コレが運命だ」

「でも．．．．．でもお！」

ついには泣き出してしまった美冬を胸に抱く．．．．．

「俺だって．．．．．俺だって嫌だ。

会える日をどれだけ待ち望んだか．．．．．

どんなに苦しくても、

どんなに辛くても．．．．．

絶対に会える．．．．．

それだけを信じて生きてきた。」

「だったら！」

「でもな？美冬．．．．これは俺達にはどうしようもない事なんだ．．．」

美冬を見つめる．．．．．

「義人．．．．．だとしても．．．．こんなのって」

「ああ。悔しすぎる。せっかく会えたんだ．．．．でも、この夕日が沈んでしまえば、お別れだ．．．．」

「っ．．．．．義人！そんな．．．．そんなこと言わないで」
「でも．．．．．事実なんだ」

二人で向かい合う。

どんなに待っていた時だろうか．．．．
どれだけがき苦しみ、辛かっただろうか．．．．
数え切れない痛みもあった．．．．
逃げ出したい時もあった．．．．

「畜生．．．．．だけど．．．．．もう．．．．．」

徐々に夕日は沈んでいく。

互いの顔も暗がり．．．．見えにくくなる．．．
次第に、公園の街灯が灯っていく．．．．

「美冬．．．．．お別れだ．．．．．」

静かにずっと抱き合っていた．．．
公園の時計が、夜の１１時を過ぎていた．．．

「嫌！嫌．．．．嫌．．．．嫌あ！やだっ！まだ．．．

まだやりたいこと沢山あるの！やり残したことが！」

「俺だってある！まだやりたいこと、やってないこと．．．
沢山ある．．．．．でもな．．．．．」

「嫌．．．．．止めて！言わないで！」

美冬が耳に手を当てて塞ぐ．．．．．

これを聞けば、言えば・・・・・・・・
終わってしまう・・・・・・・・

・・・・・・・・でも

「美冬・・・・・・・・」

そっと優し美冬の手を掴み、耳から遠ざけていく・・・・

「嫌・・・・・・・・やだよお・・・・・・・・」

「美冬・・・・・・・・また頑張ろう・・・・・・・・次会えるときまで
・・・・・・・・な？」

「もう・・・・・・・・耐えられないよ・・・・・・・・」

「大丈夫だ。俺が支えてやるよ・・・・・・・・だから・・・・・・・・」

俺自身も認めたくない・・・・・・・・でも。

認めなければいけないから・・・・・・・・
そして・・・・・・・・認めなければ・・・・・・・・

「頑張ろう・・・・・・・・な？ 日曜日は終わりなんだ」
「いやああああ！」

「いい加減にしてくれ！俺もさっさと帰りたいんだよ！」

「お兄ちゃん1人で帰れば！」

「だから、それじゃ、家に入れてもらえないんだよ！」

「月曜日なんて大嫌い！」

苦い表情をする妹である美冬を引きずって家へと足に向けた・・・

・
・
・

(後書き)

まあ、誰だって月曜日嫌だよね。
日曜日が好きだもん。
でも、逃げられない。
それが現実

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5823r/>

次に会うときまで・・・・・・・・

2011年3月13日17時37分発行